

大学院生発表奨励賞 講評

該当報告 11 本に関して、各報告ごとに 2 名の審査員によって、審査を実施した。審査の結果を踏まえ、2 人の審査員の合計得点が最も高い報告に最優秀賞を授与することにした。その他にも比較的優秀な報告も散見されたが、今回は優秀賞受賞者は該当なしとなった。

受賞報告

立教大学大学院観光学研究科 石野隆美

「観光を「日常化」する営み -世界遺産候補「長崎の教会群」における地域住民と「観光なるもの」の関係」

講評

本報告は、既存のホスト／ゲスト論を踏まえ、その二項対立的枠組みの限界を、「揺らぎ」というキーワードと、観光の「日常化」という視点から捉え直そうとする、非常に意欲的な研究である。

そのために、「ホスト」を「観光の現場」に固定化させない視角を提示し、地元住民が、「観光」を日常の文脈に読み替えていく営みに注目する。さらに、それらの考察から、「観光」概念を問い直そうとしている。

研究手法としては、五島列島でのフィールドワークを実施し、観光客対応と協会管理を担うために県によって設置された「教会守」の役割文脈の多重性に注目した。そのうえで、ある観光守の女性の観光客への語りの変化を捉え、その要因を分析している。観光守の女性が旧来の知人の言葉に含まれた「外から」の評価を気にして変化したのではないかという分析に基づき、教会守の「ホスト」としての実践は、日常的文脈と密接に接続している、と考察する。また、道端で出会った元漁師の漁業不振への嘆きや観光客増加に対する憂いの語り、その語りの場におけるメンバーによっても語り口を変えているという事例から、「潜在的な可謬的」なものとしての「観光」の存在を指摘している。

以上の事例研究については、一定の説得性は有しているが、報告者が目指した「日常化」の指す具体的な文脈、たとえば「教会守」の女性の地域コミュニティにおける元々の役割や位置、生業などが提示されておらず、何をもって「日常化」とするのかに、若干不明確さが感じられるなど、今後さらに深めて頂きたい点は存在している。

しかしながら、本報告は、理論的レビューを踏まえ、新たな知見を、理論的にも事例としても、一次資料に基づき考察提示しようとする優れた試みであり、報告者の今後の将来性が大変期待されるという審査員の意見も一致しており、本賞の授与にふさわしいとの結論を得た。よって、本報告に最優秀賞を授与する。